

「2024年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学文学部2年 細野 沙樹子

① 学習成果

私は中国語の上達と、長期留学の前に海外での留学生生活を体験しておきたいという二つの動機でこのプログラムに参加した。

中国語については、集中的な授業を通じて使える語彙が増えたこと、中国語で話すことに対して少し自信が持てたことが成長だと感じる。先生は文法や発音が少々間違っても話を聞いて下さるし、日常生活でも中国語を使う場面が多く、自分の言いたいことが相手に伝わった経験が自信に繋がっていると思う。また、クラスメートの方々が非常に積極的でレベルも高く、帰国後の中国語学習のモチベーションも上がり、自分が今まで行ってきた勉強法について改善点も見つかった。

二点目について、留学は勉強がメインだが、他にも違う国から来た留学生との出会い、その土地の風土を直接感じるなど、勉強以外の部分でも得られることが多いのだと実感した。来年の留学ではもっと積極的に他の留学生と交流したい。ただ、英語があまり出来なくて英語圏から来た留学生とあまり話せなかったため、英語も勉強しなければならないと感じた。

② 海外での経験

出発前に「香港で普通話話すのはあまり良くない」という話を聞いたことがあった。実際、街に出ても話されているのは基本的に広東語だし、飲食店で「你好、你好」と店員を呼んでも来てくれないことが何度かあった。香港の方との会話の中で、政治状況などの原因から普通話を使いたくないという意見があるのを知り、本土と香港の複雑な関係を肌で感じた。広東語は一言語であると同時に、香港人の大きなアイデンティティなのではないかと思った。

③ プログラム内容

私は一番上のクラスで授業を受けた。授業のほとんどは中国語で行われ、発言、質問も基本的に中国語で行う感じだった。午前と午後に約三時間ずつの授業があり、午前は文法で午後はリスニングとスピーキングという分け方がされていた。基本的に教科書の内容に沿って進み、先生が復習を多く挟んでくださるので単語や語法が定着しやすい。また、課題の分量はそこまで多くないけれども、週に一回中国語で簡単なプレゼンを行う授業があり、準備が必要だった。

他には香港中文大学の歴史学部の学生との交流会があり、ご飯を食べながら話した後、お互いに事前に準備したプレゼンを行った。歴史学部の方々は香港の文化を紹介してくれ、祭りや大学生の生活など、知らなかった香港の一面を知ることが出来た。

④ 進路への影響

今回の留学で進路が大きく変わったということはないが、今後も中国語の勉強を続け、来年の北京留学に繋がりたい。また、私は高校の地理歴史の教員免許を取得する予定であり、香港の街や博物館での見聞は将来少なからず役に立つと思う。